

先進地を行く

ADVANCED DISTRICT

小中学校2学期制を実施している糟屋郡志免町へ

文教厚生

文教厚生常任委員会が12月4日、5日、先進地を視察しました。レポートを紹介します。

委員	副委員長	委員長
徳永 豊	田中 和美	真崎 萬次
牟田口 美智子		



ホールの様子



図書館の様子



「そびあしんぐう」前にて

2学期制で学校活性化

糟屋郡志免町教育委員会で「志免町学校2学期制」について研修を行った。

21世紀を生きる児童生徒に確かな学力、豊かな心、健やかな体といった「生きる力」を育むために必要な時間的、精神的な「ゆとり」を生み出す効果的な方策として、まず平成15年度に志免町立志免西小学校において、平成16、17年度に全小中学校で試行した後、平成18年度から全小中学校で2学期制を実施している。

2学期制のメリットとして、たくさん説明を受けたが、夏休み前の学力向上の取組みが特に印象的であった。

きめ細やかな指導と評価で学力を保証するため、夏休み前の補充学習などの時間確保ができ、指導が充実したこと、さらにはきめ細やかな評価の蓄積とフィードバックで、一人ひとりの児童生徒が力をつけていった学習の紹介を受けたことは、まさに教育の力という感であった。

財政面の課題があるが、立派な複合文化施設

今、学校教育では確かな学力をつけるために、社会力と人間力が大事であるといわれているが、志免町はその先進校として着実な歩みが続けており、町民の期待するところも大きかった。

新宮町では保健館、図書館及び歴史資料館などの機能を備えた鉄筋コンクリート4階建（延床面積約4500㎡、建設事業費約22億7千万円）の「シーオーレ新宮」と大小ホールや研修室などを完備した町民の交流の場として利用されている鉄筋コンクリート2階建（延床面積約5500㎡、建設事業費約35億円）の「新宮コミュニティセンター（そびあしんぐう）」を視察した。いずれも大変立派な施設で、町民の利用はある程度あるものの、維持管理費など相当負担しなければならず、財政面から課題があるとの印象を受けた。